

春風秋霜

題字 春風秋霜 揮毫 上浮穴教育会OB 片岡 昌司 解説は3面



発行所 (公財)愛媛県教育会
〒790-8545
松山市祝谷町1丁目5-33
エスポワール愛媛文教会館内
電話 (089)945-8644
FAX (089)945-1459
E-mail info@ehime-kyouikukai.jp

地域の中で



松山市立西中学校
元校長 堀内 秀樹

- (2) 学校紹介 西条小学校
- (3) 地区教育会だより(南宇和) ローカルトピックス
- (4) 特集「T.H.Eチャレンジ」
- (5) 更なる学校教育の質の保証・向上を目指して
- (6) 7) 更なる学校教育の質の保証・向上を目指して
- (7) 8) ふるさとスケッチ
- (8) 第54回愛媛県教育会俳句募集要項

現職を退いてはや12年の歳月が過ぎた。この間、前半の5年間は愛媛県教育会事務局で本誌(文教月報)の編集にも当たらせていただいた。後半は育てていただいた地域への恩返しのため、地域での町内会の役員をさせていただいている。町内会長の活動を通して強く思ったのが、教育界にいた時にいかに地域のことを知らなかったかということであった。地域を動かしている組織やシステムも人も、何も知らなかった。したがって、当初は久米地区の会に出て行っても状況をつかむことに精一杯であった。しかし、次第に責任ある立場に立つこととなり、自分なりに地域への恩返しも成就しつつあると思えるようになってきた。

もう一つ、強く思わされているのが、教職にあった方が極めて少数しか地域の役についていない現実である。松山市の

久米地区には12の町内会・自治会があるが、私が町内会長として属した6年間で、町内会長又は地域役員として会の運営に協力いただいた方のお名前を思い出さることができない。他の地域でも私の知りうる限り、公民館や地域の役員をされている方は数えるほどしか存じ上げない。

現在のどの地区でもコミュニケーションスクール実施に伴い学校運営協議会が発足していると思う。教育会の退職会員こそが学校と地域をつなぐ最も適した人材なのではないだろうか。

せっかく退職して自由を手に入れたのに、町内会の役員など面倒なだけかわりたくないと思っっている方が多いと思う。しかし、地域に知り合いが増え、さまざまな世界で多様な経験を積んできた人々との交流を通して親交を深めることは、地域や学校の運営だけでなく、自身自身の人生を豊かにすることに通じるところだろう。

一略 歴(ほりうち・ひでき)

昭和51年4月	松山市立勝山中学校 新採
平成25年度	愛媛県教育研究協議会会長
平成26年3月	松山市立西中学校 退職
平成25年5年間	愛媛県教育会事務局 勤務
令和2・3年度	松山市教育会会長
令和2年度	地元町内会長
令和5年度	松山市久米地区町内会長兼会長

聞きょう響

今年の冬、ミラノ・コルティナ冬季オリンピック2026が開催された。日本選手の数多くの活躍からは、大きな感動と元気をもらった。笑顔でインタビューに応じる選手からは、競技そのものを心から楽しむ姿を感じ取った。しかし、そこにたどり着くには、想像を絶するような厳しい練習に耐え、それを乗り越える強靭な「たくましさ」が存在していたのは言うまでもない▼「たくましい」の意味には、身体的及び精神的な強さに、勢いのよさが加わる。最近の子ども(大人も含め)には、精神的な「たくましさ」が欠落している感がある。「たくましさ」の要素として「自己肯定感」「柔軟性」「社会性」「我慢」などが考えられるが、これらは変化の激しい社会を生き抜くために必要不可欠な力である。ただ、それぞれに課題が山積しているのが現状だ▼現代社会では、失敗や我慢を経験する機会を避け、効率化や要領のよさを優先して、少しでも楽を求めようとする傾向が見られる。急速に進化しているAI技術を駆使し、様々な局面で活用する流れは外せない。反面、そこに問題が増幅していることから目を背けることもできない▼大人が本当の「たくましさ」を追究し共有して、子どもに背中を示していくことが、デジタルとアナログのベストミックスを成立させる重要なカギとなるように思う。

ひとこと

居場所のある教室で



内子教育会
会長
大宇根秀夫

文科省による不登校人数の発表を耳にするたび、やりきれない思いが募る。不登校に至る過程は様々で、はっきりした要因が分からないケースも多く、対応されている現場の先生方のご苦労を思う。

私は小学校時代、友達との人間関係よりも、学級内で日常的に行われることに嫌気を感じていた。その一つが、忘れ物調べ。朝の会の時、忘れ物係が、ハンカチ、チリ紙から始まって忘れ物を厳しくチェックする。その頃、忘れ物をして慌てる夢を見るなど、忘れ物にナーバスになった。二つ目、終わりの会の時、その先生は最後にテストを返却し、一言付け加える。直

した人から帰っていいと。早くできて教室を出る時も、何度も間違えて遅くなる時も、どちらも嫌な時間だった。他にもあるが、紙面上ここまで。ささいなことでも、それを負担に感じる子どもはいる。

それらの経験から、現職の頃の忘れ物については次のように話していた。忘れることは誰にでもあるから、忘れ物をした時は、忘れたからどうするかを言ってきたらよいと。宿題を忘れたから明日持って来るでも、今日中にやるでも。様々な忘れ物に対して神経質にならないようにした。算数の練習問題などを解くときは、早くできたら困っている友達の相談に乗るなど、みんなで教え合うことにしていた。失敗してもできなくても、それをあまり負担に感じる子どもがいないように。

4月、新学期が始まる。子どもたち一人一人が、居場所のある教室で、楽しく学校生活を送ってくれていることを切に願っている。

学校紹介

No.267

西条市立西条小学校

「つながり」で笑顔と活力を

本校は、1870（明治3）年に創立され、150年以上の歴史と伝統を有する学校です。南に西日本最高峰の石鎚山系を望み、清らかな水に恵まれた西条市中心部に位置しており、地域の発展とともに歩んできました。このような伝統ある本校は、教育目標を「笑顔と活力のある西条っ子の育成」とし、個別最適な学びやICT活用を通じて児童の主体性や協働性を育成するとともに、「つながり」を大切にしたい学校づくりを推進しています。



本校の大きな特徴の一つに日本語指導教室があります。

本教室は、外国にルーツをもつ児童や、日本語による学習や学校生活に困難を抱える児童を対象に、日本語の習得と学校生活への円滑な適応を支援することを目的として県内で初めて設置されました。本教室では、児

童一人一人の日本語能力や学習状況に応じて、生活に必要な日本語から教科学習につながる日本語までを段階的に指導しており、児童が安心して学び、自信を持って学校生活を送ることができるよう支援しています。また、在籍学級との連携を大切にし、本教室での学びが日常の友達との関わりの中で生かされるよう、協力して指導を進めています。言語や文化の違いを尊重し、多様性を認め合う教育を通して、すべての児童が共に学び合う学校づくりを推進しています。

また本校では、異年齢活動を大切に、児童同士のつながりを深める教育活動を行っています。その一つが昨年度行った全校児童で取り組むビッグアート作成です。

この活動では、異学年の児童がグループを組み、それぞれが役割を分担しながら本校のイメージキャラクター「ニッシー」を完成させました。高学年児童はリーダーとして活動を支え、低学年児童をまとめることで、思いやりや協力の心を育んでいます。全校集会でのお披露目では、自然と大きな拍手が起こり、達成感や一体感を味わう機会となりました。

このように西条小学校は、多様性を大切にしながら笑顔が広がっていく学校なのです。

（教頭 月岡 俊）

題字に寄せて

春風秋霜



上浮穴教育会 OB 片岡 昌司

「春風秋霜」は、江戸時代の儒学者である佐藤一斎の言葉として知られている。「春風を以て人に接し、秋霜を以て自ら慎む」という言葉を略したもので、彼の著書「言志四録」にこの教えが記されている。

これは、「人には春風のように穏やかで寛大な心で温かく接し、自分自身には秋の霜のように厳しく行動を律するべきだ」という教えである。他人と自分に対する心の持ち方を説いている。現代社会においても「人に優しく、自分に厳しく」という生き方に通じる。暖かな春を迎え、今一度、自分自身の心に刻みたいと思っている。

地区教育会 だより

南宇和教育会

世代を超えた 絆で響き合う



南宇和教育会 事務局長 清水 美和

南宇和教育会は、南宇和郡旧5か町村（内海・御荘・城辺・一本松・西海）にそれぞれ分会を有する、現職・OB・賛助会員合わせて300人の組織です。分会活動では、各学校からの現状報告や会員の近況報告、退職校長による講話、親睦を深める昼食会や懇親会など、地域ごとに特色ある活動を展開しています。ここでのつながりが、各校での円滑な学校運営を支える盤石な基盤となっています。

また、南宇和教育会として行っている、毎年恒例の一日研修旅行では、話題のスポットを巡り、美食に舌鼓を打ち、自然と会話も弾みます。互いの生き方や人間性に触れることで、自身

の人生観に影響を及ぼす、そんな深い交流が生まれる一日になっています。さらに、教育文化講演会では、地域に根差した学びを追求しています。本年度は、大病院を定年退職後帰郷し、地域医療に貢献されている医師を講師に招き、愛南町の医療の現状を織り交ぜつつ、人生100年時代を生き抜くためのヒントを教えてくださいました。人とのつながりがもつパワーを実感しながら、これからも現職とOB会員が世代を超えた絆で響き合い、共に歩み続ける教育会でありたいと願っています。



ローカルトピックス

ジオサイト

「榎木駄馬古墳」

「かたぎだばこふん」と読みます。私が勤務している西予市立中川小学校の校区、宇和町坂戸地区にある直径11・7m、高さ4・5mの円墳です。古墳時代後期にあたる7世紀前後につくられたとされており、西予ジオパーク肱川上流エリアのジオサイトのひとつとなっています。全長7・5mある宇和盆地最大の横穴式石室にはチャートの大きな石材が使用され、特に奥壁には巨石の一枚岩が使用されています。

本校では、フィールドワーク遠足のポイントの一

つとしており、児童の地域学習、歴史学習の場となっています。古墳が数多く残る宇和町においても、ここまで良好な状態のものは珍しく、実際に石室に入ることもできます。ぜひ一度訪れて、厳肅な雰囲気と古代の息吹をご体感ください。

（愛媛文教員編纂協力委員 黒田 真生）



訂正とお詫び

令和8年3月号8面に掲載の【図書室から】の中で、「いよし百冊物語1・2」の「岡田有利子様」を「岡田由利子様」と誤記しておりました。訂正し、お詫びいたします。

特集 THEチャレンジ

原動力



新居浜市立船木中
養護教諭
今西 涼か

憧れの養護教諭になり、5年目を迎えた。生徒と共に笑い、共に悲しむことができ、寄り添える喜びを感じている。生徒が来室した際には、「いらっしやい」と温かく迎え、「お大事に」と送り出している。納得して教室に帰れるよう、心身の負担を減らしている。また、生徒の抱える問題を一緒に考えることで、自分自身の視野の広がりにもつながっている。

保健室では日々、生徒のチャレンジに出会う。教室に全く入ることすら難しかった生徒が、少しずつ教室で過ごせる時間を増やし、卒業式では胸を張って力強く返事をするまでに成長した姿。不安げな表情で頻繁に保健室に足を運んでいた生徒が、体育大会では団長として仲間を引っ張り、堂々と指揮を執る姿。今の自分よりも前へ進もうとする、その一歩一歩をすぐそばで見守られることが、私にとって何よりの喜びであり、仕事を続ける大きな原動力となっている。

私も、生徒たちを動かす原動力になれているのかと考えることがある。私の目標は、生徒にとって私た

ち教師が学校に行く原動力の一つになることである。会いたい、話したい、どんな理由でもいい、誰かの支えに少しでもなれるよう、意味のある存在でありたい。そして、そんな大切な生徒たちの命を預かり、心身の健康を守り育てる養護教諭として、これからも学び続ける姿勢を大切にしたい。

生徒のチャレンジを見届けながら、私自身も成長し続けること、それが私の「ザ・チャレンジ」である。

やるしかない



方論 健介
市立伯方中
教諭 小池

昨年の夏休み、健康のためにジョギングを始めました。かなりゆっくりとしたペースでしたが、総走行距離を計算すると122キロに達し、「意外と走れるんだ」と勘違いが始まりました。そこへ家族の「愛媛マラソンに挑戦してみたら」という言葉に乗せられ、更に勘違いしてエントリー。しかし結果は落選しました。経験者の親戚からも「初心者のフルは無謀」と諭され、ようやく目を覚ました感覚になり、内心、ほっと気が楽になりました。

ところが、飲み会の席で状況が一

変します。実は密かに走っている先生が多いと知り、お酒の力もあって、なぜかその場で「丸亀ハーフマラソン」にエントリー。翌朝、酔いが冷めて青ざめる私に、家族は「いいことじゃん、頑張りなよ！」と明るく励ましてくれました。未経験の距離への不安がある中、練習を再開したものの現実は甘くなく、先日も13・9キロ地点で肉離れのような症状が出てリタイア。妻に迎えに来てもらうはめになり、家族の笑い種になりました。

20キロの壁は高く、今でも「本当に完走できるのか」と弱気になりませんが、決めたからには完走することが目標です。まさか自分が好き好んで走る日が来るなんて夢にも思いませんでしたが、走り終わった後の格別にうまいビールのために、本番までもう少しだけ、あがいてみようと思えます。

高速道路スタンプラリー 完全制覇への道



北中 諭 香
市立北中
教諭 西川

私が今、情熱を注いで挑戦しているのは「高速道路SA・PA記念スタンプブック(西日本編)」の完全制覇だ。滋賀から九州、沖縄まで、設置場所は全部で208か所に及ぶ。この広大なエリアを網羅する試みは、私にとって自分自身の限界を試す大

きな冒険となっている。

挑戦の原点は、初めて一人で車旅に出た島根県のサーブエリアでの出会いだった。ふと手にした1冊のスタンプ帳。その真っ白なページを眺めているうちに、「自分の運転で、どこまでスタンプを埋められるだろうか」という未知の世界への好奇心が湧き上がり、その場で挑戦を決意した。

現在、私はスタンプ帳に16か所のスタンプを集め終えた。208という数字は決して小さくない。長距離運転の疲労や、効率的なルート作成の難しさに直面することもあつた。しかし、立ち寄る先々で出会うご当

事業承継・経営計画



税理士法人 和田タックスブレイン
株式会社 TKC和田経営センター

〒790-0012 代表税理士 高田 幸史
松山市湊町一丁目1番地29 社員税理士 福岡 豪
TEL (089) 932-1188

地グルメや特産品が、私を突き動かす原動力だ。その土地ならではの料理を堪能し、家族や自分へのお土産を選ぶ時間は、一人旅ならではのぜいたくなひとときである。各地の「味」に触れるたび、移動の疲れは次の場所への期待感へと変わっていく。スタンプが増えるたび、私は未知の場所へ飛び込む勇氣と、道中を楽しむ心の余裕を手に入れていく。全制覇を果たした時、一回り成長した自分に出会えると信じ、私は今日も新しい景色を目指してハンドルを握っている。

学び続ける 教員を目指して



大洲市立大洲小
教諭
楠井詠之介

祝 受章・受賞おめでとうございます

◇瑞宝双光章（高齢者叙勲）

石丸 憲司様	88歳	元朝倉村立上朝小学校校長	今治市
稲葉 誠治様	88歳	元三瓶町立三瓶小学校校長	西予市
岡部 昭善様	88歳	元新居浜市立浮島小学校校長	新居浜市
加地 孝光様	88歳	元土居町立小富士小学校校長	四国中央市
川上 哲生様	88歳	元東予市立河北中学校校長	西条市
富永 琢見様	88歳	元松山市立たねな小学校校長	松山市
藤野 卓郎様	88歳	元新居浜市立西中学校校長	新居浜市
別府 淑夫様	88歳	元今治市立日吉中学校校長	今治市
◆愛媛県政発足記念日知事表彰			
峯本 陽子様	68歳	元砥部町立砥部小学校校長	松前町

教員として働き始めてもうすぐ2年になる。初任者として赴任し右も左も分からない日々を、先輩方の助けを得ながら何とか乗り切っていた一年目と比べ、今は少し心に余裕ができ、忙しくも充実した日々を過ごしている。

私が今チャレンジしたいと思っていることは「毎日日記」である。1月に行われたフオローアツプ研修（2年目）の中で、同期の取組の一つとして紹介された。私はこれまで、授業の中でも生活場面でも、自分の思いや考えを表現することが難しい児童が多いように感じていた。どのような取組や支援を行えばよいのだろうかと考えながらも、忙しさを理由に後回しにしていた中で、同期のこの取組を知った。

「毎日日記」の取組方法は、宿題として、その日あった出来事や感じたことを日記に書いてくるというシンプルな内容である。学級全員の日記をその日のうちに添削し、それを毎日続けていくことは容易なことではない。しかし、「毎日日記」を書き

続けたことで、児童の書く力や思いを言葉にする力が高まり、さらにはその日記をきっかけに、児童と保護者の会話も増えたという成果を聞き、私もチャレンジすべきだと考えた。「教員は最良の教育環境である」という言葉

を胸に、これからも教員としての誇りと情熱をもち、児童の成長を支えられるように、自己研さんに努めていきたい。

競技者として



大洲市立大洲南中
主事
田中 佑哉

私は中学生の頃からカヌー競技に取り組み、学生時代は「カヌースプリント」、現在は「ワイルドウォーター」という競技に取り組んでいます。就職してからは競技者として活動を続けながら、地元大洲市で活動する大洲カヌークラブに所属し、コーチとして小中学生への指導にも携わっています。

「ワイルドウォーター」は、流れのある川で決められた距離のタイムを競う競技で、川の流れに乗りながら、岩などの障害物を避けて進むため、正確な艇のコントロールと流れを読む力が求められます。簡単なイメージとしては、ラフティングを一人乗りの競技艇で行うようなものです。流れの中で、自分が思い描いたコースを正確に通ることができた瞬間は大きな達成感があり、その感覚がこの競技の一番の魅力です。競技者として、国民スポーツ大会出場を目標に掲げ練習をしています。昨年度は県内の選考レースで敗れ、本戦出場はかないませんでした。今年度はその悔しさを糧に青森

県で開催される本選への出場を目指して練習に日々励んでいます。また、指導者としての研さんにも力を注いでいます。先日東京で開催された小学生向けの指導者講習会に参加し、発達段階に応じた指導のポイントや効果的な声かけ、身体の使い方などを学びました。学んだことをクラブの子どもたちにも還元し、それぞれの成長につなげていきたいと思っています。

教育の振興を目指す!

日教弘の「3大事業」

- 教育振興事業
 - 奨学事業
 - 教育研究助成事業
 - 教育文化事業
- 福祉事業
- 共済事業
 - 提携保険事業

公益財団法人 日本教育公務員弘済会愛媛支部
〒790-8545 愛媛県松山市祝谷町1-5-33 エスポール愛媛文教会館内
TEL(089)932-8358 FAX(089)932-8357

県教育委員会義務教育課が進める令和8年度事業について

そのような中、県教育委員会では、今年度も、特に次の二つの施策に力を入れて取り組んでいきます。

えひめ版学力向上推進事業

今年度から、第5期学力向上推進計画がスタートしています。子供たちの「知りたい」を育み、心の底から「分かった」「できた」という喜びを生むための授業づくりに視点を当て、更なる学校教育の質の保証・向上を目指します。

▶教育データの利活用

県独自の学力調査や全国学力調査のデータ分析を専門業者に委託し、詳細な分析結果を学校や市町に対してフィードバックすることで、エビデンスに基づいた、更なる授業改善を目指します。

▶生成AIを活用した教材開発・授業実践

研究実践校において、利便性やセキュリティが高い「exaBase（エクサベース）生成AI」を導入・活用し、効果的なプロンプト集や実践事例を県内に展開します。

▶授業力パワーアップ研究会

授業研究会を継続実施するとともに、その成果を県内に横展開することで、実践的な授業力の向上を目指します。

▶読解力チェックテストの実施

読解力を客観的に評価するための「読解力チェックテスト」を新たに作成・提供し、読解力向上を目指します。

▶EILS「みきゃん通帳」の活用拡大

EILSに多読称賛機能や書評機能を拡充し、児童生徒の読書習慣の定着や読解力向上を目指します。

不登校児童生徒等支援事業

本県においても、不登校児童生徒数は増加傾向にあり、令和6年度は全国平均を上回っています。全ての児童生徒に対して教育機会を確保するために、子供たちの不登校の状態に応じた適切な支援を目指します。

▶不登校児童生徒等支援事業（経済的支援）

フリースクール等に通った際の交通費等を支給します。引き続き、対象児童生徒への紹介をお願いします。

▶校内サポートルーム設置事業

県が設置する校内サポートルーム13校をモデル校として、更なる横展開を後押しするとともに、市町が独自に設置する校内教育支援センターへの補助についても継続実施します。

▶フリースクール連携推進事業

審議会で選定されたフリースクールに対して、財政的支援を行います。

▶県教育支援センター（メタサポセンター）での支援

不登校支援の拠点として、専門スタッフによる支援を行うとともに、メタバース上の学びの場であるメタサポキャンパスも、自宅から出られない児童生徒の学びの場として継続実施します。

また、児童生徒の英語コミュニケーション能力の強化等を目指した「グローバル人材育成に向けた英語力強化事業」、デジタル技術の利用を通じて、社会に積極的に関与し、参加する能力の育成を目指した「えひめデジタル・シティズンシップ育成事業」、県域での次世代校務支援システムの共同調達・共同利用を含む、市町の次世代校務DXの更なる推進を目指した「小中学校次世代校務DX推進連携事業」など、様々な施策を通して、未来を切り拓くたくましい子供たちの育成に向けて、多面的かつ重層的な取組を展開していくこととしております。

おわりに

現在、学校教育を取り巻く環境は、多様な課題と大きな変革の時代を迎えています。今後、より一層、県・市町・学校が一体となって「オールえひめ」で取り組むためには、これまでに教育行政機関、各学校、各地域で確立してきたPDCAサイクルの在り方を今一度見直し、子供たちにとって意義のある取組を推進することが必要です。その上で、若手からベテランまで、全ての教師が、それぞれの強みを発揮し、教師自身も子供と学び続けながら、更なる学校教育の質の保証・向上に努めていただきたいと思いますので、引き続き、御理解と御協力をお願いいたします。



更なる学校教育の質の保証・向上を目指して

愛媛県教育委員会義務教育課

はじめに

今年も「二十歳を祝うつどい」が、県内の多くの自治体において開催されました。総務省によると、2026年（令和8年）1月1日現在の新成人（平成19年生まれの18歳）の人口は約109万人とのことです。2022年に、成年年齢は20歳から18歳に引き下げられましたが、多くの自治体では、引き続き、20歳を対象に「二十歳を祝うつどい」などの式典が開催されています。2007年（平成19年）に生まれた子供が、生存する年齢とその可能性を、国別にまとめた資料によると、日本は、「107歳まで生きる確率が50%」となる長寿社会を迎えることとなります。また、2023年（令和5年）に、新入社員を対象に行ったアンケート調査結果によると、約半数が、10年以内に転職を考えているとのことです。2年前のデータであることや、調査自体が全ての職種を対象としたものであることを考慮する必要がありますが、これは、転職という選択肢が身近になり、その度に新たな適応や学習が求められる時代、言い換えれば、自分自身で学び続ける経験や習慣がより一層重要となる時代が来ていることを示しているのかもしれない。これらのことを考えた場合、我々教師にとって最も大切なことは、子供たちが未来で生き抜くための「資質・能力を育成する」ことであると改めて感じます。そのためにできることは、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った、更なる授業改善であると考えます。



次期学習指導要領の基本的な考え方や方向性とは

次期学習指導要領に向けた基本的な考え方や方向性を検討している文部科学省では、中央教育審議会教育課程企画特別部会が中心となって議論を進め、令和7年9月に『論点整理』が取りまとめられました。今回の『論点整理』は、分かりやすさが重視されており、今までのように文章形式ではなく、プレゼン形式で作成されているのが特徴です。今後の検討の基盤となる基本的な考え方として、次の三つが挙げられています。

「主体的・対話的で深い学び」の実装

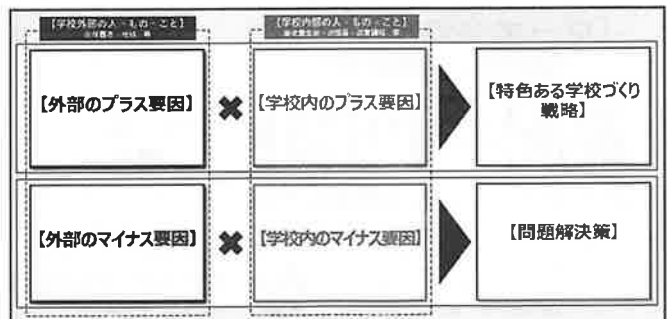
多様性の包摂

実現可能性の確保

生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、自らの人生を舵取りすることができる、民主的で持続可能な社会の創り手を「みんな」で育むため、これらの三つの方向性に基づく改善が、教育課程内外のあらゆる方策を用いつつ、三位一体で具現化されるべきものとして議論が進められています。また、「実現可能性の確保」という、これまでになかった視点が盛り込まれている点も特徴的であると思います。

学校や地域の実情に応じた教育課程を編成するために

「実現可能性の確保」においては、「調整授業時数制度」の創設についての検討が進んでいます。「調整授業時数制度」とは、各学校の判断により、各教科の標準授業時数を調整して教育課程を編成することを可能とし、生み出した時数を他教科等や「裁量的な時間」に充当可能とするものです。調整授業時数は、「① 既存の各教科等への上乗せ」、「② 教科の新設」、「③ 裁量的な時間（子供の資質・能力の育成に特に資する教育活動、教師の組織的な研究・研修等）」への活用が想定されています。本県においても、今年度より、公立小・中学校6校を研究指定校として研究を開始しました。柔軟な教育課程を編成・実施する上で、当然、県や市町の教育委員会による伴走支援が重要であることは言うまでもありませんが、各学校においても、学校や地域の実情に応じた取組を推進できるよう、準備を進めていく必要があるものと考えます。その際、最も重要となる視点が、カリキュラム・マネジメントではないでしょうか。昨年度、県教育委員会がオンデマンド方式で実施した「令和7年度教育課程理解促進研修 総則部会」において、戦略を立てるためのフレームワークである「SWOT分析」を教育版に簡略化したレポートの提出を求めたところ、「学校外部のプラス要因」と「学校内部のプラス要因」から、今後更に伸ばしていきたい「特色ある学校づくり戦略」を、「学校外部のマイナス要因」と「学校内部のマイナス要因」から、今後対応していかなければならない「問題解決策」を導き出し、カリキュラム・マネジメントにより、学校教育の質の保証・向上につなげていこうとする好事例が多く見られました。



ふるさとステーション

No.497

立岩地域



立岩小 諭 翔宇
立岩教 石川 翔宇

で人気のある高縄山、そして春に満開のツツジで鮮やかに彩られる貫之山など。

豊かな自然と歴史が息づく立岩へ、ぜひ一度遊びに来てみてはどうでしょう。

立岩地域は松山市北部に位置する、自然豊かな地域です。古くから農業が盛んで、かつて伊予の豪族・河野氏が産声を上げた「発祥の地」としても知られています。

この地には、数多くの魅力が詰まっています。ホタルが舞う清流として名高い立岩川をはじめ、絶好のドライブ・ハイキングコース



ご冥福をお祈りします

大野 睦郎様	92歳	上浮穴郡久万高原町菅生二五七	8・1・13
近藤 晋様	91歳	四国中央市川之江町三〇三	8・1・14
森岡真由美様	81歳	南宇和郡愛南町満倉八五五	8・1・14
長田 幸雄様	96歳	南宇和郡愛南町久家一六	8・1・22
近藤 朝男様	89歳	新居浜市宮原町三三三	8・1・22
山本威稜子様	96歳	西条市丹原町池田八五	8・1・24
泉 米子様	93歳	八幡浜市五反田一六〇	8・1・27
五藤 修一様	73歳	八幡浜市保内町宮内四三三八	8・1・28
水谷 恒様	88歳	北宇和郡鬼北町延川八〇	8・1・29
高木 敏雄様	99歳	四国中央市上分町六七	8・1・30

第54回 愛媛県教育会俳句募集

協賛 愛媛県学校生活協同組合連合会

一 募集期間 令和8年8月10日(月)～11月10日(火)

一般の部

◇応募資格 県内在住の成人

◇投句数 雑詠一人2句まで

※二重応募不可(各種大会への投句及び新聞紙上や句会での発表句は不可)

◇応募方法

【郵送】はがきに、俳句・住所・氏名・電話番号を楷書で記入後投函。

【メール】本教育会ホームページ掲載の様式に入力後、メールにて送付。

ジュニアの部

◇応募資格 県内の小・中学生

◇投句数 一人1句(二重応募不可)

◇応募方法 【メール】学校で左記様式を本教育会ホームページ「お知らせ・俳句の募集」<https://ehime-kyouikukai.main.jp/osirase/haiku/>よりダウンロードし、入力後、メールにて送付。

二 応募先 〒790-8545 松山市祝谷町二丁目5-33 愛媛県教育会 俳句募集係

Mail: info@ehime-kyouikukai.jp

三 表彰・発表

◇特選2句、優秀・佳作若干句。

◇一般の部 特選・優秀句に賞状・記念品、佳作に賞状を贈呈。ジュニアの部 入選者に賞状・記念品を贈呈。

◇入選句は、「愛媛文教月報」2月号、本会ホームページ等に掲載。なお、一般の部で入選されなかった方への通知は行いません。

四 備考

◇応募俳句は有季定型句とする。

◇「一般の部」の入選句は、俳句雑誌等に掲載させていただくことがあります。

文教俳句

一俳句ポストより一

せわしなく川の底打つ白鶴鶴	松山市 遠藤 節子
紅梅や護国神社に香り立つ	松山市 遠藤 節子
温泉は前向く心春の夜	松山市 遠藤 節子
一人来てまた一人来る日向ぼこ	松山市 遠藤 節子
菜の花の咲き染む畦道帰り道	松山市 遠藤 節子



くわしくはこちらから

令和7年12月22日 内閣告示 「ローマ字のつづり方」を反映した最新版!

表記の手引き 第九版

松村 明 校閲 教育出版編集局 編 A5判/296ページ 定価:1,760円(本体1,600円+税)

表記の手引き



〒730-0051 広島市中区大手町3-7-2 あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル5F TEL 070-6986-6390 FAX 082-249-6040



シロアリ 予防と駆除のご案内

大地震の際、シロアリ被害のあった建物は倒壊の危険が高くなります。地震対策はシロアリ防除から

友清白蟻

人と住まいの安心をサポート

情報のスタッフが調査から防除メンテナンスまでトータルにスピーディに対応。安心してお任せください。



お問い合わせ 愛媛県学校生活協同組合連合会 電話(089)925-0555 または 都市学校生活協同組合まで